

「司法試験合格答案作成ノート」

—目次—

第一章 司法試験に受かるまで（P 4）

第二章 総論（P 9）

第1. 司法試験論文答案の形式（P 9）

1. 文の形（P 9）

- (1) 主語と述語の関係
- (2) 修飾語と被修飾語の関係
- (3) 意味内容の明確化
- (4) 文の引き締め
- (5) 条文の示し方

2. 段落の形（P 25）

- (1) 段落の目的を明確にする
- (2) ナンバリングの意義を理解する

3. 答案全体の形（P 31）

- (1) メインの要素とサブの要素を明確にする
- (2) 配点を意識して分量を確定する
- (3) 抽象論と具体論のバランスを考える

第2. 司法試験論文答案の論理（P 40）

1. 結論先出し答案と結論後出し答案（P 40）

2. 問題提起の手法（P 43）

- (1) 多段階の問題提起
- (2) 事実を用いた問題提起
- (3) 問題提起で反対利益に言及するテクニック
- (4) 黙示の問題提起

3. 法的三段論法（P 50）

- (1) 明示的法的三段論法
- (2) 簡易的法的三段論法

4. 要件検討の方法（P 56）

5. 文と文（言葉と言葉）のつなげ方（P 59）

- (1) 文の順序

- (2) キーワードリンク
- (3) 並列関係
- (4) 対比関係
- (5) 逆説関係
- 6. あてはめの論理 (P 66)
 - (1) 事実の引用と事実の評価
 - (2) あてはめの階層構造
- 7. ラベリング (P 70)

第三章 各論 (P 72)

第1. 科目別の答案の書き方 (P 72)

- 1. 憲法 (P 72)
 - (1) 違憲審査基準論
 - (2) 判例ないし反論を想定して自説を述べる (2018年～)
- 2. 行政法 (P 83)
 - (1) 処分性
 - (2) 原告適格
 - (3) 行政裁量
 - (4) 3者間の主張対立 (裁量論を例に)
- 3. 民法 (P 92)
 - (1) 要件事実型答案/実体法型答案/半要件事実型答案
 - (2) 論点の位置づけを考える
- 4. 商法 (P 97)
 - (1) 法的瑕疵と法的効果の区別
 - (2) 経営判断原則
 - (3) 条文で文章を書く
- 5. 民訴法 (P 100)
 - (1) 要件事実知識をベースにした具体的検討
 - (2) 判例射程問題
- 6. 刑法 (P 105)
 - (1) 構成要件の検討の大原則
 - (2) 共犯 (共同正犯・狭義の共犯) の検討方法
 - (3) 実行行為該当性と実行の着手時期を段階的に論じる問題
 - (4) 学説対立問題
- 7. 刑訴法 (P 109)
 - (1) 捜査の発展的性格を踏まえた捜査の適法性検討



(2) 要証事実の認定と伝聞・非伝聞の区別

第2. 現場思考論点との戦い方 (P 1 1 3)

1. 現場思考論点の難しさと攻略法 (P 1 1 3)

2. 抽象論の再構成 (P 1 1 8)

第四章 最後に (P 1 2 1)